

週日の説教

金 大烈 神父 2011年8月24日(水)

《偽りのない者と言われるために ～神様の御言葉を求める心～》

暑さはまだありますが、セミの鳴き声も少なくなってトンボの姿を見かけるようになり、空気も秋らしい雰囲気になってきました。

さあ、今日はバルトロマイの祝日です。今日何故、福音で(ヨハネ 1・45-51)この箇所が選ばれたのでしょうか。ナタナエルの話が出ていますよね。フィリポに連れられてイエス様に出会うナタナエルの話が出ます。バルトロマイとナタナエルはどのような関係があるか、皆様ご存じでしょうか。この二人は同じ人物です。聖書学者と教会の教えとしては同じ人物と言われています。

このナタナエルはイエス様に出会って『もっと偉大なことをあなたは見ることになる。』と預言されたように、結局インドまで宣教師として、使徒として使われそこで殉教しました。一番初めにインドに福音を伝えた方が、このナタナエルでありバルトロマイ使徒であると言われています。

12使徒のなかにある名前なのに、「バルトロマイについての聖書の物語が全然見えません。バルトロマイはどこに書いてあるのでしょうか」とよく探している方がいます。皆様、バルトロマイとナタナエルは同一人物だということを今日初めてお分かりになったでしょう。覚えて下さいね。

さあ、今日皆様と話し合いたいことは以前にも申し上げたと思いますが「偽りがない人」というこの言葉についてです。もし誰かに、人間同士で、ある人に私のことを「あの人は偽りがない人だ」と言われたら、私はありがたい気持ちよりも、すまない心がもっと大きくなると思います。「何を分かっている、とんでもない話をしているか」と、ある意味で気持ち悪くなるかも知れません。しかし神様に「あなたは偽りがない者だ、よく分かっている」と言われたら、その人はどんなに幸せ者でしょうか。私たちは、自分が自分のことをはっきり分らないでいますよね。しかし、神様に「あなたは私が信じるべき者だ。」と言われたら最高の誉れでしょう。

皆様をお願いしたいことは、私たちこのように偽りがない人生を最後まで行き尽くせないかも知れません。しかし、目指しとしては、目標としては、理想としては、“私も偽りのない者と言われたい”という気持ちで、生き方を選ばなくてはいけないと思います。実際にこれは本当に難しいことでありながらも、このようになったらどんなに幸せになるかを私たちは誰でも分かっています。少なくとも自分に残されている人生、これからの人生出来るだけ真実であり、何とか神様に認められる人生を過ごしたい気持ちで、私たちが信仰の生活をする事が出来れば、もう少し今よりは相応しい、そして見美しい人生になるのではないかと考えてみました。

さあ、いちじくの木の下にいるのを見てと言う話がありましたね。ナタナエルは「あなたがフィリポに会う前にいちじくの木の下にいるのを見た」とイエス様に言われました。これは簡単には見えないところにいたにもかかわらず、イエス様が見たということではなく、いちじくの木が意味する内容

があります。

その当時イスラエル人は、神様の御言葉を分かち合う時には、シンボリックにいちじくの木の下で話し合いました。ですから、いちじくの木が意味するものは、神様の御言葉を求めながら分かち合う人のことを言うのです。いちじくの木の下にいるのを見たということは、イエス様は「あなたがメシアを待ち望んでいることをよく知っていた。」と言う意味にもなります。このようなことで聖書の勉強も必要ですよ。

彼が本当に、偽りがない真実な人生ばかりを歩んだかどうかは、私は確信出来ません。彼も人間で、弱いところを持っている人間ですから。しかし彼が神様に認められた一番大きなことは、彼が少なくとも私達に希望を一つ与えるのは、メシアを、神様の御言葉を認めながら今までやって来たということです。私たちも同じでしょう。色々と怖さがあっても、少なくとも皆様の心に“神様の御言葉を求める心、メシアを待ち望んでいる心”があるはずです。私たちが少し頑張れば、このように「偽りがない者だ」と神様に言われると私は希望しています。

このナタナエルも色々な知恵があったのでしょ。ないはずがありません。イエス様の目で一つの基準、「偽りがない者だ」ということは、何事があっても限界があっても“神様の御言葉を求める心”、それが一番大事なことだということをもう一度私たちが心に刻みましょう。

がっかりしないで下さい。皆様は希望があります。これからはどうすれば「偽りがない者」になれるか。それは御言葉を求め、そして御言葉を出来るだけ沢山のひと分かち合おうとするその心であることを意識しましょう。

最後に宣教、宣教とよく言いますが一番必要な言葉はこの態度です。『来て、見なさい』。この言葉を言える自信がどこからくるかよく考えてみてください。あなたが何か疑いを持っていても、今私は口で説明したくはない。『来て、見なさい』と言うくらいの確信を皆様は持つべきだと思います。フィリポのこの一言、『来て、見なさい』。あなたは疑っているが『来て、見なさい』と言うこの一言によって、一人の人が使徒に選ばれました。命さえ捧げる殉教者になったわけです。これがいわゆる宣教です。

皆様、私たちも『来て、見なさい』と言える者になるために頑張りましょう。

ありがとうございました。